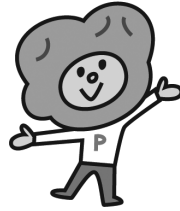


原子力 ワンポイント

広く利用されている放射線 35



Yurichan 放射線
ることになっていきます。

ゆりちゃん 甲状腺がんって何ですか？

タクさん そもそも甲状腺とは、首の前、喉仏(のどぼとけ)の骨よりやや下の方にある二十〜三十グラムの小さな臓器です。この臓器

上、②内部被ばくの場合には「組織等価線量」二百mSv以上で、発がんリスクの増加が観察されています。潜伏期(被ばくから甲状腺がんが発症するまでの期間)は、前者が十〜十五年以上、後者が四〜五年以上です。

タクさん 超音波検査の経過が報道されるたびに甲状腺がんが増えているかのような印象を受けます。しかし、

また、福島県の「県民健康調査」では「のう胞」の数も増えているので(「しこり」のサイズが、と甲状腺がんに関する国際ワークシヨップ(二

福島県内での甲状腺がん増加とは言えず

甲状腺がんは、首の前、喉仏(のどぼとけ)の骨よりやや下の方にある二十〜三十グラムの小さな臓器です。この臓器にできる腫瘍が甲状腺がんです。ふくしま国際医療科学センターの放射線医学県民健康管理センターによれば、①外部被ばくの場合は全身線量「実効線量」で百ミリシーベルト(mSv)以

また、福島県の「県民健康調査」では「のう胞」の数も増えているので(「しこり」のサイズが、と甲状腺がんに関する国際ワークシヨップ(二

は世界十か国から、医学者、疫学者、放射線リスク評価専門家など、世界トップクラスの専門家が集まり、「①子供の甲状腺被ばく線量は、チェルノブイリ事故の結果に比べて著しく低い、②

甲状腺がんの潜伏期間は四〜五年と考えられる。医学的知見から、放射性ヨウ素(I-131)が原因であるとは考えにくい、③甲状腺がんは、二十ミリ以下の「しこり」のあった子供は、事故時点で幼児でなく十歳代の小児(チェルノブイリでは〇〜五歳児の幼児)であった」と評価され、放射線による甲状腺がんの増加とは考えにくいと判断されました。

ゆりちゃん 福島と他県の甲状腺がん発症率を比較することはできないのですか？
タクさん 環境省では、福島県と同じ手法で長崎市と甲府市、青森県弘前市の三十八歳の

の超音波検査を実施、その結果を昨年三月に発表しました(表1)。朝日新聞(二〇一三年三月八日)は、「二十ミリ以下の「しこり」のあった子供が五六・六%、それ以上の大ききの「のう胞」などがあった子は一% (福島は〇・六%) いた。環境省の桐生放射線健康管理担当参事官は、福島の結果は他県とほぼ同様だったと考えている。また、長瀧長崎大

表1 福島県と環境省が行った甲状腺超音波検査の結果

検査結果	福島県民の健康調査		青森/山梨/長崎3県調査	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
結節やのう胞を認めなかった	148,182	51.6	1,853	42.5
5ミリ以下の「結節」や20ミリ以下の「のう胞」を認めた	136,804	47.7	2,468	56.5
5.1ミリ以上の「結節」や20.1ミリ以上の「のう胞」を認めた	2,069	0.7	44	1
甲状腺の状態などから判断して直ちに2次検査が必要	1	0	0	0
検査が確定した総数	287,056	100	4,365	100

福島県「県民健康調査」検討委員会で、福島県立医大が五月、甲状腺がんを診断が「確定」した子供(事故当時十八歳以下)は前回(二月)の三十三人から十七人増え五十人に、「がんの疑い」は三十九人(前回は四十一人)になったと報告しました。放射線で甲状腺がんは増えているのでしょうか。

(原産協会・人材育成部)